

学年・実施時期

2 年

教科・科目

世界史B

単元

『世界史B』（東京書籍） 第3編「一体化する世界」 第12章「海洋帝国の出現」

発問する場面

「大航海時代」の概要(「なぜヨーロッパの人々は海に乗り出したのか」「なぜこの時期に「大航海時代」が始まったのか」)を学習した後。多くの「航海者」が登場する場面。

思考を深める問い

(MQ) 現代社会において、私たちがコロンブスについて学ぶ意義とは何だろうか。

ねらい・効果

西回り航路の開拓に失敗して香辛料を獲得できなかったコロンブスだが、最後まで自身が上陸した島を「インド」だと信じて疑わなかった。このような失敗続きのコロンブスを、そもそもなぜ私たちは学ぶのか。「コロンブス」という人物を「再評価」する活動を通して、「大航海時代」という歴史を「再評価」する。また、「現代社会において」という文言に着目させることで、現代社会に残る「黒人差別」や「ヨーロッパ中心史観」につながる見方(意見)を促す。

生徒の反応（いずれかに○をつけ、追加で説明が必要があれば記入）

思考がよく深まった（ ○ ） 思考が少し深まった（ ） 深まらなかった（ ）

（追加説明）授業のまとめ段階において、「大航海時代」という語が「大交易時代」と記載されていることにも触れたことで、授業後に「○○という語も見方を変えれば、△△と表現した方が良いのではないか。」「じゃあ○○(人物)を何で勉強するの?」といった感想を述べ合う生徒らがいた。

添付資料等（図や写真、URLなど参考になるものがあれば添付）

（資料と生徒のおおまかな動き）

- ①授業者がワークシート(全員共通)を配布する。
- ②授業者が【史料A】と【史料B】を列ごとに交互に配布する。
- ③生徒は、【史料A】または【史料B】のいずれかのみを読んで、MQについて考える。
(あえて【史料A】か【史料B】のどちらかのみを提示することで、一面的な見方からMQについて考えさせる。)
- ④グループ形態となった時に、隣の生徒と異なる史料を読んでいたことに気付く。
- ⑤グループ内で各史料がどのような内容だったのか情報共有を行う。
(情報共有する際に、「コロンブス」や「大航海時代」に多面的な見方があることに気付かせる。)
- ⑥情報共有した内容を踏まえて、再度個人でMQについて考える。

【史料A】

林屋永吉訳『コロンブス航海誌』岩波文庫

清水透『ラテンアメリカ五百年』岩波現代

ラス＝カサス著『インディアスの破壊についての簡潔な報告』岩波書店

秋田茂ほか『高等学校 世界史探究』第一学習社

桃木至朗ほか『新詳世界史探究』帝国書院 などの一部を抜粋。

【史料B】

矢守克也ほか『高等学校 新地理総合』帝国書院

坂上康俊『新編 新しい社会 地理』東京書籍

富田啓介『あれもこれも地理学』ベレ出版

土井淑平『アメリカ新大陸の略奪と近代資本主義の誕生』星雲社 などの一部を抜粋。